

「消防団の力向上モデル事業」事業紹介

事業名 通信DX ～ 横断的かつシームレスな災害対応を目指して

自治体名

佐賀県鳥栖市

消防団名

鳥栖市消防団

1 事業の目的

誰でも簡単な操作で、指揮所から現場の状況等の把握・指示、各種会議、指揮所訓練などを行うことできる「リアル映像コミュニケーションシステム」を導入し、関係団体等による情報・指揮連携の横断的かつシームレスな災害対応を目指す。

2 事業内容

1 「リアル映像コミュニケーションシステム」の整備

- (1) 可搬型ビデオ会議システム: 2台(対策本部・現地指揮所)
 - ・ドローンやヘッドマウントカメラで収集した映像情報の伝達
 - ・可搬型・可動式定点カメラによる映像配信・会議への参加
 - ・最大10団体との同時映像共有・会議が可能
- (2) PC連携システム: 1台
 - ・Zoom・Teamsなどの既存ソフトとの連携も可能
- (3) LinkPhone(5 I D)
- (4) 専用モバイルパッケージ・ヘッドマウントカメラ: 1セット

2 同システムを使用した会議及び訓練

- (1) 各種会議: 平時からの関係機関との会議
 - ※ 災害時の災害対策本部会議の接続訓練を兼ねる。
- (2) 情報伝達訓練: 遠隔地の情報を災害対策本部等にする。

3 事業成果

1 WEB会議(2回)

消防団および消防署とWEB会議を行った。当務などで消防署から離れられない場合などでも、会議に参加できた。

2 現地指揮所の開設訓練(1回)

屋外で蓄電池・発電機を使用して現場指揮所を開設した。加えて、乗用車内での検証も行い、映像の確認を行った。

3 関係機関と連携した情報訓練(鳥栖市・消防団・消防署)

映像等の共有・記録などの情報連携及び指揮連携ができた。

4 通信の耐障害性(花火大会等での映像送信検証)

クラウドに依存していないため、災害時も情報連携が可能で衛星通信を使用すれば、地上回線が不通・混雑であっても、安定的な通信ができた。

4 目標達成状況

指標	単位	当初目標	実績値
WEB会議	実施回数	2回	2回
現地指揮所開設	実施回数	1回	1回
情報訓練	参加団体数	3機関	3機関
通信耐障害性	実施回数	1回	1回

5 その他参考情報

リアル映像コミュニケーションシステムの電源は、AC100Vであるため、発電機や蓄電池などでも稼働させることができる。

